



貝と赤い帽子の少年 1970年

いわさきちひろ 生誕地・武生 ピエゾグラフィ展

ちひろ 夏の海と子どもたち

2026/6/6[SAT] ▶ 2026/8/31 [MON]

いわさきちひろ 生誕地・武生 ピエゾグラフィ展

CHIHIRO
MEMORIAL HOUSE

ちひろ 夏の海と子どもたち

2026/6/6[SAT] ▶ 2026/8/31[MON]

季節は夏。子どもたちの声がにぎやかに聞こえる季節になりました。海辺には波とたわむれながら泳いだり、砂を掘って遊んだり、魚や貝を探したり……さまざまに過ごす子どもたちの姿が見られます。子どもを数多く描きたいわさきちひろにとって、太陽の下で元気に遊ぶ日に焼けた子どもたちは、生命力にあふれる魅力的な存在でした。夏の子どもたちの作品は、帽子や貝がらなどで彩られ、水彩絵の具のにじみや勢いのある筆使いで表現された海からは、子どもたちの歓声や波の音が聞こえてくるようです。

本展ではちひろが描いた海と子どもたちの作品を集めました。ちひろが亡くなる前年に発表された絵本『ぼちのきたうみ』も紹介します。夏の海で遊んだ時間を思い出しながらご覧ください。



夏の母と子 1960年代前半

【ピエゾグラフィとは】 ちひろ美術館では、2004年より、その時点の作品の状態をデジタル情報として記録し、保存していくアーカイブを進めてきました。同時に、そのデジタル情報をもとにして、「ピエゾグラフィ」の制作をしています。

ピエゾグラフィとは、耐光性のある微小インクドットによる精巧な画像表現で、ちひろの繊細な水彩表現を高度に再現しています。

伝統的工芸品や越前おろしそばなど、越前市観光のお問い合わせは

手仕事



越前たけふ観光案内所 ☎0778(42)5257
越前市大屋町38-5-1 北陸新幹線越前たけふ駅隣 道の駅「越前たけふ」内
観光・匠の技案内所 ☎0778(24)0655
越前市府中1丁目2-3 ハピラインふくい武生駅前センチュリープラザ内
echizen-tourism.jp (運営：一般社団法人越前市観光協会)



越前国の中心地として栄えた武生(現・福井県越前市)のまちなか、職人町風情が漂う旧北陸道から少し東に入った路地に面し、静かに佇む古い町屋があります。そこはかつて、質・古着屋が営まれていた商家。この家の離れで、のちに日本を代表する絵本画家となる、いわさきちひろは生まれました。ちひろの母・岩崎文江は当時、武生町立実科高等女学校の教師として単身赴任していました。やがて、ちひろを身ごもると、お産のためにこの家の離れに移りました。そして1918年12月15日の雪の朝、ちひろはここで産声をあげたのです。今も往時の暮らしの面影を残し、静かな時が流れるこの町屋を、「ちひろの生まれた家」記念館として公開しています。



「ちひろの生まれた家」記念館

【開館時間】 10:00~16:00

【休館日】 火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始

【入館料】 一般 500円(高校生以下は無料)

※その他の料金についてはHPをご覧ください

【アクセス】(電車) ハピラインふくい武生駅より、徒歩約10分

福井鉄道たけふ新駅より、徒歩約15分

北陸新幹線越前たけふ駅より、タクシー

ご利用で約15分

(お車) 北陸自動車道武生IC・道の駅「越前たけふ」

より、約15分 ※駐車場あり

〒915-0068 福井県越前市天王町4-14

☎0778-66-7112

